

令和6年度

教育功勞者功績概要

千葉県教育委員会

1 教育行政の部

習志野市教育委員会教育長 小 熊 隆

平成 30 年、習志野市教育委員会教育長に就任し、現在に至る。卓越した見識と豊富な経験を活かし、習志野市の学校教育、ICTにおける教育・環境の整備、音楽活動の振興、地域との連携などに尽力した。特に不登校・いじめ対策として、匿名相談WEBアプリの導入、適応指導教室や教育相談員等の充実、さらに地域に開かれた学校づくりに向け、市内全校に学校運営協議会を設置するなどした。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

前八千代市教育委員会教育長 小 林 伸 夫

平成 30 年、八千代市教育委員会教育長に就任し、5 年 10 ヶ月務めた。SDGs の達成に向けた ESD（持続可能な開発のための教育）を各学校の特色を活かして推進したほか、阿蘇・米本地域の小中学校 4 校を統合し、義務教育学校阿蘇米本学園として開校させた。空調設備の設置の実施など、教育環境の充実に取り組むとともに、生涯学習や文化振興にも広く貢献した。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

八千代市教育委員会委員 石 井 伸 一

平成 25 年、八千代市教育委員会委員に就任し、現在に至る。この間、平成 26 年 10 月から同 28 年 9 月まで委員長を、同 28 年 10 月からは教育長職務代理者を務めている。委員就任前から小学校 P T A 会長や八千代市通学区域審議会委員、P T A 連絡協議会監事として子供たちを見守り、支援する活動を行ってきた。卓越した見識と豊富な経験を活かし、幅広い分野から精通した見識を活かし、適切な指導、助言を与えた。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

南房総市教育委員会委員 庄 司 美 佳

平成 24 年、南房総市教育委員会委員に就任し、現在に至る。本市では、平成 22 年より「南房総学」と題し、故郷への誇りと強い思いを持つ子どもの育成を目指した取り組みを開始したが、氏は更なる充実を図るため捕鯨に着目し、児童生徒に鯨の解体や食文化について学ぶ機会を提供するなど、郷土愛をはぐくむ学習の充実に積極的に努めてきた。委員として地方教育行政の振興に尽力しながら、地域と学校とが連携した教育の仕組みづくりに多くの提言をするなど、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

元市原市教育委員会委員 洞 厚 子

平成 24 年、市原市教育委員会委員に就任し、平成 24 年から令和 5 年まで 11 年にわたり務めた。卓越した見識と柔軟な発想を活かし、保護者としての視点から教育環境の充実に取り組み、小中学校の空調設備設置や ICT 教育の推進に適切な指導・助言を与えた。この間、地方教育行政の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県教育庁教育振興部長 荒 金 誠 司

昭和 63 年、成田市立久住第一小学校教諭。管内小学校教諭、成田市教育委員会指導主事、教育庁教育総務課主査、同教育政策課副主幹、成田市立三里塚小学校教頭、教育庁教育総務課副主幹を経て、平成 28 年、佐倉市立井野小学校長。その後、教育庁教職員課主席管理主事、北総教育事務所管理課長、同次長、教育庁学校安全保健課長、同児童生徒安全課長、同学校危機管理監を歴任し、令和 6 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

2 学校保健の部

柏市立柏第一小学校学校医 池松武臣

昭和54年、柏市立旭小学校等学校医に就任。以来、現在に至るまで、同市内逆井小学校等、同市内複数校の学校医として、児童生徒の健康診断や健康指導、学校内の環境衛生などの学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、柏市医師会理事を務め、会員に学校保健の重要性を説くなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

柏市立田中小学校学校医 阿部正視

昭和56年、柏市立田中小学校学校医に就任。以来、現在に至るまで、学校医として、児童生徒の健康診断や健康指導、学校内の環境衛生などの学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、柏市医師会理事、副会長を歴任し、会員に学校保健の重要性を説くなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

銚子市立本城小学校学校医 安藤克仁

昭和54年、銚子市立興野小学校等学校医に就任。以来、現在に至るまで、同市立銚子西高等学校（平成20年から同市立銚子高等学校に統合）等、同市内複数校の学校医・園医として、園児児童生徒の健康診断や健康指導、学校内の環境衛生などの学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、銚子市医師会理事、副会長を歴任し、会員に学校保健の重要性を説くなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

いすみ市立大原小学校学校医 齋藤正敏

昭和56年、大原町（現いすみ市）立東海小学校学校医に就任。以来、現在に至るまで、同市立大原小学校、東小学校の学校医として、児童の健康診断や健康指導、学校内の環境衛生などの学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、夷隅医師会理事、副会長、会長を歴任し、会員に学校保健の重要性を説くなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

市原市立養老小学校学校医 大木美秀

昭和56年、市原市立湿津小学校学校医に就任。以来、現在に至るまで、同市立国分寺台中学校等、同市内複数校の学校医・園医として、児童生徒の健康診断や健康指導、学校内の環境衛生などの学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、市原市医師会理事を務め、会員に学校保健の重要性を説くなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立稲毛第二小学校学校医 細山公子

昭和54年、千葉市立長作小学校学校医に就任。以来、現在に至るまで、同市立幕張東小学校等、市内複数校の学校医として、児童生徒の健康診断や健康指導、学校内の環境衛生などの学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康保持増進に積極的に取り組んだ。本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

市川市立須和田の丘支援学校学校医 小坂弘道

昭和 57 年、市川市立須和田の丘支援学校学校医に就任。以来、現在に至るまで、同市立全小・中学校、義務教育学校、特別支援学校、幼稚園の整形外科専門の学校医として、児童生徒の健康診断や健康指導、学校内の環境衛生などの学校保健全般にわたり指導・助言を行い、健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、市川市医師会理事、副会長を歴任し、会員に学校保健の重要性を説くなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立八千代特別支援学校学校歯科医 佐藤英世

昭和 56 年、八千代市立八千代中学校学校歯科医に就任。以来、現在に至るまで、千葉県立八千代特別支援学校の学校歯科医として、定期歯科健康診断を行うなど、児童生徒の健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、社団法人習志野歯科医師会理事、社団法人八千代歯科医師会理事、専務理事、副会長、会長を歴任し、会員に学校保健の重要性を説き後進の育成をするなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

東金市立正気幼稚園学校歯科医 堤正広

昭和 63 年、東金市立正気小学校等学校歯科医に就任。以来、現在に至るまで、千葉県立東金商業高等学校の学校歯科医として、定期歯科健康診断を行うなど、園児児童生徒の健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、社団法人山武郡市歯科医師会理事として、会員に学校保健の重要性を説き後進の育成をするなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

松戸市立横須賀小学校学校歯科医 横山英雄

昭和 58 年、松戸市立横須賀小学校学校歯科医に就任。以来、現在に至るまで、同市立新松戸北小学校、新松戸西小学校の学校歯科医として、定期歯科健康診断を行うなど、児童の健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、社団法人松戸市歯科医師会理事として、会員に学校保健の重要性を説き後進の育成をするなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

野田市立尾崎小学校学校歯科医 牧寿次

昭和 58 年、野田市立川間小学校学校歯科医に就任。以来、現在に至るまで、同市立岩木小学校、尾崎小学校、学校法人千葉武陽学園西武台千葉中学校、同高等学校の学校歯科医として、定期歯科健康診断を行うなど、児童生徒の健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、社団法人東葛北部歯科医師会理事、専務理事、社団法人野田市関宿町歯科医師会理事、副会長、社団法人野田市歯科医師会会長を歴任し、会員に学校保健の重要性を説き後進の育成をするなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

佐倉市立根郷小学校学校歯科医 長島聖司

昭和 60 年、佐倉市立南部中学校等学校歯科医に就任。以来、現在に至るまで、同市立根郷小学校等、同市内複数校及び千葉県立佐倉南高等学校の学校歯科医として、定期歯科健康診断を行うなど、児童生徒の健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、社団法人印旛郡市歯科医師会理事として、会員に学校保健の重要性を説き後進の育成をするなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

元千葉市立越智小学校学校歯科医 馬場俊郎

昭和 58 年、千葉市立天戸中学校等学校歯科医に就任。以来、長きにわたり、同市立打瀬中学校等、同市内複数校の学校歯科医として、定期歯科健康診断を行うなど、児童生徒の健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、社団法人千葉市歯科医師会理事として、会員に学校保健の重要性を説き後進の育成をするなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

元成田市立西中学校学校歯科医 永井和広

昭和 60 年、成田市立神宮寺小学校学校歯科医に就任。以来、長きにわたり、同市立西中学校等、同市内複数校の学校歯科医として、定期歯科健康診断を行うなど、児童生徒の健康保持増進に積極的に取り組んだ。また、社団法人印旛郡市歯科医師会理事、専務理事、副会長、会長を歴任し、会員に学校保健の重要性を説き後進の育成をするなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

船橋市立若松小学校学校薬剤師 市原容子

昭和 45 年、船橋市立若松小学校等学校薬剤師に就任。以来、同市立湊町小学校の学校薬剤師に就任し、卓越した知識と優れた技術を持ってその結果に基づき、長きにわたり児童生徒のために指導及び助言を行うなど、本県保健教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県公立学校職員健康審査会委員 猪狩英俊

平成 18 年、千葉県公立学校職員健康審査会委員に就任。以来、現在に至るまで 16 年の長きにわたり、学校職員の結核等の審査を行うなど、学校職員の健康保持増進に積極的に取り組んだ。千葉大学医学部附属病院で感染症管理治療部長として、臨床における治療に従事するほかにも、公益財団法人ちば県民保健予防財団に勤め県立学校生徒の結核検診に携わるなど、本県保健行政の進展に寄与した功績は大である。

3 芸術文化の部

(1) 個人の部

千葉県美術会常任理事 清野 一郎

多摩芸術学園において陶芸を学ぶ。日展、千葉県美術展覧会（県展）を中心に作品を発表し、県展では、昭和 58 年に知事賞、平成 2 年に県展賞を受賞。平成 3 年以降は県展工芸部門の審査員を 6 回務める。こうした事績から、平成 16 年に千葉県美術会理事に、令和 2 年から常任理事に推挙される。県展及び県美術会の発展や後進の指導育成に尽力するなど、工芸（陶芸）を通じて本県文化芸術の振興に寄与した功績は大である。

千葉県美術会常任理事 佐藤 美和子

日本画家の故平山郁夫、大矢紀、両氏に師事し、日本画を学ぶ。日本美術院展覧会、千葉県美術展覧会（県展）を中心に作品を発表する。県展では平成 10・15 年に県文化振興財団会長賞、16 年に知事賞を受賞。平成 21 年以降、県展日本画部門の審査員を 5 回務める。こうした事績から、平成 24 年に千葉県美術会理事に、平成 30 年から常任理事に推挙される。県展及び県美術会の発展や後進の指導育成に尽力するなど、日本画を通じて本県文化芸術の振興に寄与した功績は大である。

千葉県写真連盟副会長 藤井 弘

昭和 60 年に千葉県写真連盟の理事に就任後、同連盟の運営に携わり、平成 30 年より副会長を務める。同連盟における写真教室や撮影会などの各種事業を通じて、県内で活動する写真愛好家相互の親睦を図るとともに県民の芸術文化の推進向上に寄与した。また、県が主催する千葉・県民文化祭に長年参加し、同連盟が主催する写真千葉県展を通じて、県民の写真文化の健全な発展に尽力するなど、本県文化芸術の振興に寄与した功績は大である。

千葉県吟剣詩舞道総連盟理事長 石井 桃苑

平成 15 年に千葉県吟剣詩舞道総連盟の理事に就任後、常任理事、事務局長就任を経て、令和 4 年より理事長を務める。研修やコンクールの開催などの各種事業を実施し、県内の吟詠・剣詩舞の各会における相互協調体制の拡充に尽力した。また、県が主催する千葉・県民文化祭に長年参加し、同連盟が主催する千葉県吟剣詩舞道大会を通じて、本県における吟剣詩舞の向上発展に尽力するなど、本県文化芸術の振興に寄与した功績は大である。

元千葉県文化財保護審議会会長 松田 誠一郎

日本・東洋彫刻史を専門とし、平成 26・27 年度に千葉県文化財保護審議会委員、平成 28 年度から 8 年間、同会長を務めた。主に有形文化財（彫刻）の分野において重要な提言を行い、市原市長栄寺の木造十一面観音菩薩立像をはじめ、有形文化財の指定に多大な貢献があった。県内各地の文化財調査も数多く実施し、彫刻の修理について専門的な見地からの的確な助言等を行った。また、会長という重責を担い、文化財保護審議会運営にも尽力し、本県文化財保護に寄与した功績は大である。

千葉県指定無形文化財保持者 京 増 重 利

平成16年3月に天真正伝香取神道流の武術を高度に体現でき、正しく体得・継承、精通しているとして、千葉県指定無形文化財「武術 天真正伝香取神道流」の保持者に認定された。本武術の型は豊富多彩におよび、太刀術、居合抜刀術、棒術、槍術、薙刀術、柔術、手裏剣術、忍術、築城術などいわゆる武芸十八般にわたる。門弟への厳格な稽古、指導により武術の継承に務めており、本県無形文化財保護における功績は大である。

大多喜町文化財審議会会長 梶 原 正 方

歴史学、有形文化財（工芸品）を専門とし、平成11年度から大多喜町文化財審議会委員、令和元年度から現在まで同会長を務めている。また、袖ヶ浦市文化財審議会委員、長南町文化財審議会委員も歴任し、長く市町の文化財の保存活用について尽力してきた。主に有形文化財の分野において重要な提言を行い、国史跡の袖ヶ浦市の山野貝塚や多くの市町指定文化財の指定等を推進した。本県文化財保護に寄与した功績は大である。

(2) 団体の部

千葉県能楽連盟

平成10年5月に千葉県謡曲協議会として設立(同15年2月に千葉県能楽連盟と改称)。以来「千葉県謡曲と仕舞の会」の開催や能楽普及事業などの各種事業を通じて、各能楽団体会友相互の研鑽・交流を深めるとともに、能楽体験教室をはじめとした能楽普及事業を通じて、本県における能楽文化の継承・発展に尽力した。また、平成11年からは千葉県芸術文化団体協議会に加盟し、さらに活動の幅を広げるなど、本県文化芸術の振興に寄与した功績は大である。

長柄歴史同好会

昭和60年11月の設立以来、39年にわたり郷土史研究を継続し、長柄町の歴史・考古・民俗・地誌・芸術等の各分野の研究に貢献してきた。本会は、会員の研究発表・外部講師による記念講演・各地への視察研修を実施している。また、これまでに会員の研究成果等をまとめた研究冊子『長柄の歴史』を第5集まで刊行している。現在でも活発な研究活動を続けており、本県文化財保護に寄与した功績は大である。

山倉の鮭祭り保持団体 山倉区

平成17年3月に「山倉の鮭祭り」が千葉県指定無形民俗文化財に指定され、山倉区がその保持団体として認定された。「山倉の鮭祭り」は、香取市の山倉大神の例大祭で、毎年12月に行われる。奉納された鮭を祭礼前日に白川流包丁式の神事でさばき、祭礼時に護符とする祭りである。山倉区では山倉大神の祭礼の伝承を長く努めており、本県無形民俗文化財保護に寄与した功績は大である。

4 社会教育の部

(1) 個人の部

元千葉県高等学校PTA連合会会長 **武藤 弘 晃**

平成26年、東金市立鵜嶺小学校PTA本部役員、同副会長、同会長を歴任。東金市PTA連絡協議会副会長を経て、令和2年同会長に就任。東金市のPTA活動を牽引し、その活性化に大きく貢献した。同年から千葉県立東金高等学校PTA副会長、同4年同会長就任と同時に千葉県高等学校PTA連合会会長、同5年同会顧問、同6年第70回関東地区高等学校PTA連合会大会千葉大会の実行委員長を務め、本県の社会教育・家庭教育の充実に力を尽くした。学校教育への惜しみない協力を通じて、本県社会教育の進展に寄与した功績は大である。

元千葉県ユネスコ連絡協議会会長 **吉崎 晴子**

平成8年より28年間にわたり、ユネスコ精神である平和活動一筋に活躍し、現在も活動を続けている。ESD世界大会に参加、全国大会、関東ブロック活動研究会主管としても開催に尽力し、千葉県ユネスコ活動の中心的人物として活躍した。千葉県ユネスコ協会連絡協議会の活動では、ユネスコスクール、ESD活動、SDGs教育の推進、子どもキャンプの開催、世界寺子屋運動等、率先して活躍し、千葉県ユネスコ平和運動の中心として尽力し、本県社会教育の進展に寄与した功績は大である。

元千葉県子ども会育成連合会理事 **山口 周作**

昭和62年に地元子ども会に加入後、平成10年から令和4年の通算24年間一宮町育成会会長および千葉県子ども会育成連合会長生支部理事を務めた。平成12年から令和元年まで子ども会育成連合会かたるた大会支部役員及び指導者を通算19年にわたり、子供から大人まで指導などを行っている。令和元年度から令和3年度まで千葉県子ども会育成連合会の専門部員を務め、令和4年度は理事を務めあげた。周囲の信頼も厚く、本県社会教育の進展に寄与した功績は大である。

(2) 団体の部

銚子市公正図書館

銚子市公正図書館は昭和23年に創立された。幼児から大人まで幅広い世代の市民が読書に親しめる環境づくりに力を入れている。成人向けには「古文書に親しむ会」、子供向けにはブックスタート事業や「おはなし会」「クリスマス会」などの各種事業を実施している。そのほか、読書手帳の配付、電子図書館サービスなども行っている。また、団体貸出や職業体験、見学受入れ等、学校等との連携を積極的に図っている。こうした取組が評価され、令和3年度には『子供の読書活動優秀実践図書館』として文部科学大臣表彰を受けるなど、銚子市並びに本県社会教育の進展に貢献した功績は大である。

5 学校教育の部

(1) 個人の部

ア 県立学校

千葉県立京葉工業高等学校長 大岡 正和

昭和 63 年，千葉県立成田西高等学校教諭（平成 4 年から成田国際高等学校に校名変更）。白里高等学校教諭（平成 20 年から大網高等学校に統合），東金高等学校教諭，茂原高等学校教諭，九十九里高等学校教頭，教育庁体育課副主幹，同主幹を経て，令和 3 年，九十九里高等学校長。その後，令和 5 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，保健体育科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立船橋高等学校長 風戸 正

平成元年，千葉県立大原高等学校教諭。八千代西高等学校教諭，八千代東高等学校教諭，教育庁指導課指導主事，総務部学事課副主幹，教育庁特別支援教育課指導主事，小金高等学校教頭，松戸市教育委員会副参事を経て，令和 2 年，松戸市立松戸高等学校長。その後，さわやかちば県民プラザ所長となり，令和 5 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，数学科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立東葛飾高等学校長 稲川 一男

昭和 62 年，千葉県立流山南高等学校教諭。松戸国際高等学校教諭，松戸馬橋高等学校教諭，教育庁指導課指導主事，東葛飾高等学校教頭，教育庁学習指導課指導主事，同主席指導主事，県総合教育センター学力調査部長を経て，令和 3 年，市川市立大洲中学校長。その後，令和 5 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，国語科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立柏陵高等学校長 後藤 光康

平成 2 年，千葉県立流山東高等学校教諭（平成 20 年から流山おおたかの森高等学校に統合）。流山高等学校教諭，柏市立柏高等学校教諭，教育庁体育課指導主事，鎌ヶ谷西高等学校教頭，教育庁体育課スポーツ推進室競技スポーツ班長，同主幹を経て，令和 3 年，浦安南高等学校長。その後，令和 5 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，保健体育科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立佐倉高等学校長 谷口 哲也

平成 3 年，千葉県立千葉東高等学校教諭。京葉工業高等学校教諭，千葉市立千葉高等学校教諭，県総合教育センター指導主事，教育庁指導課指導主事，文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課専門官，船橋高等学校教頭，県総合教育センター研究指導主事，同学力調査部長，教育庁学習指導課教育課程室長を経て，令和 2 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，理科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立銚子商業高等学校長 宮内輝久

昭和62年、千葉県立館山高等学校教諭（平成20年から館山総合高等学校に統合）。柏市立柏高等学校教諭、銚子商業高等学校教諭、東金商業高等学校教諭、教育庁学校安全保健課指導主事、銚子商業高等学校教頭、佐原高等学校副校長を経て、令和2年、銚子市立銚子高等学校長。その後、令和5年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、商業科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立長生高等学校長 河野安勝

平成2年、千葉県立行徳高等学校教諭。船橋高等技術専門校職業訓練指導員（令和6年から船橋テクノスクールに校名変更）、津田沼高等学校教諭、長生高等学校教諭、大網高等学校教諭、教育庁指導課指導主事、県総合教育センター指導主事、教育庁県立学校改革推進課副主幹、松尾高等学校教頭、教育庁教育政策課副主幹、同教育立県推進室長を経て、令和2年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、理科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立安房高等学校長 早川貴英

昭和62年、千葉県立船橋豊富高等学校教諭。安房高等学校教諭、天羽高等学校教諭、長狭高等学校教頭を経て、令和2年、安房拓心高等学校長。その後、令和5年から現職。この間、学校経営に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立木更津東高等学校長 島崎一広

昭和63年、千葉県立市原八幡高等学校教諭。君津商業高等学校教諭、天羽高等学校教諭、教育庁指導課指導主事、県子どもと親のサポートセンター指導主事、教育庁教職員課管理主事、同県立学校改革推進課副主幹、長狭高等学校教頭、教育庁教職員課主席管理主事を経て、平成31年、上総高等学校長（令和3年から君津高等学校に統合）。その後、教育庁企画管理部副参事兼高校改革推進室長となり、令和5年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、国語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立市原八幡高等学校長 武富恒徳

平成5年、千葉県立館山高等学校教諭（平成20年から館山総合高等学校に統合）。袖ヶ浦高等学校教諭、市川市立福栄中学校教諭、市原緑高等学校教諭、教育庁指導課指導主事、千葉高等学校教頭、教育庁学習指導課指導主事、同主席指導主事、同高等学校指導室長を経て、令和3年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、国語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立千葉豊学校長 松田厚

昭和63年、千葉県立館山豊学校教諭。佐倉市立下志津小学校教諭、四街道養護学校教諭、教育庁特別支援教育課指導主事、同教職員課管理主事、市川特別支援学校教頭、千葉大学教育学部附属特別支援学校副校長、教育庁教職員課管理主事、同人事室特別支援学校班長を経て、平成29年、東金特別支援学校長、その後、教育庁特別支援教育課教育課程指導室長、同特別支援教育課長を歴任し、令和5年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、特別支援教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立袖ヶ浦特別支援学校長 伊藤 康 弘

昭和 63 年、千葉県立八日市場養護学校教諭。千葉養護学校教諭、国立久里浜養護学校教諭（平成 19 年から筑波大学附属久里浜特別支援学校に校名変更）、四街道養護学校教諭、県総合教育センター指導主事、教育庁教育総務課主査（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課研修）、同特別支援教育課指導主事、同教職員課管理主事、佐倉市立西志津小学校教頭、千葉盲学校教頭、教育庁特別支援教育課指導主事、国立大学法人北海道大学職員高等教育推進機構准教授を経て、平成 30 年、八日市場特別支援学校長。その後、県総合教育センター特別支援教育部長、特別支援学校流山高等学園校長を歴任し、令和 5 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、特別支援教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立特別支援学校市川大野高等学園校長 小倉 京 子

昭和 62 年、千葉県立桜が丘養護学校教諭。千葉大学教育学部附属養護学校教諭、国立大学法人千葉大学職員（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課研修）、教育庁特別支援教育課指導主事、船橋市立薬田台小学校教頭、教育庁特別支援教育課教育支援室長を経て、平成 31 年、湖北特別支援学校長。その後、県総合教育センター特別支援教育部長を経て、令和 4 年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、特別支援教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立千葉商業高等学校事務主幹 岡本 恵 利

昭和 58 年、千葉県立東葛飾高等学校主事。若松高等学校主事、同主任主事、教育庁印旛地方出張所主任主事、同副主査、教育庁福利課副主査（公立学校共済組合派遣）、同主査、同副主幹等を経て、平成 29 年、市川昂高等学校事務長。その後、船橋啓明高等学校事務長を経て、令和 4 年から現職。この間、よく校長を補佐し、円滑な学校事務の運営に努め、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立君津高等学校事務主幹 ・ 田 良 一

昭和 58 年、千葉県立松戸矢切高等学校主事（平成 23 年から松戸向陽高等学校に校名変更）。木更津東高等学校主事、同主任主事、教育庁社会教育課主任主事（財団法人千葉県社会教育施設管理財団派遣）、同副主査、君津亀山少年自然の家庶務課長、長狭高等学校主査等を経て、平成 25 年、千城台高等学校事務長。その後、上総高等学校事務長（令和 3 年から君津高等学校に統合）、木更津東高等学校事務長、館山総合高等学校事務主幹を歴任し、令和 4 年から現職。この間、よく校長を補佐し、円滑な学校事務の運営に努め、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

イ 市町村立学校

習志野市立大久保小学校長 本間 美奈子

昭和 63 年，習志野市立屋敷小学校教諭。管内小学校教諭，習志野市教育委員会指導課指導主事，浦安市立浦安小学校教頭，教育庁葛南教育事務所指導主事を経て，平成 31 年，船橋市立金杉小学校長。その後，習志野市教育委員会指導課長，同学校教育部副参事を歴任し，令和 5 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，国語科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

船橋市立小栗原小学校長 小林 努

平成元年，船橋市立湊町小学校教諭。管内小学校教諭，県立現代産業科学館主任上席研究員，船橋市立三山小学校教頭，教育庁葛南教育事務所指導主事を経て，平成 31 年，船橋市立八木が谷北小学校長。その後，教育庁葛南教育事務所主席指導主事となり，令和 5 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，社会科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

市川市立中山小学校長 奥田 淳

昭和 63 年，東金市立東金中学校教諭。県内小学校教諭，県生実学校児童自立支援専門員，市川市教育委員会教育センター副主幹，市川市立若宮小学校教頭，市川市教育委員会教育センター主幹を経て，令和 2 年，市川市立北方小学校長。その後，市川市教育委員会学校教育部次長となり，令和 5 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，教育相談の充実に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

浦安市立浦安小学校長 臼井 基之

昭和 62 年，浦安市立堀江中学校教諭，管内中学校教諭，浦安市教育委員会学務課副主査，同指導課副主査，教育庁葛南教育事務所指導主事，浦安市立明海南小学校教頭，浦安市教育委員会指導課長補佐，国立教育政策研究所学力調査課分析係長を経て，平成 29 年，浦安市立明海中学校長。その後，教育庁葛南教育事務所主席指導主事，同指導室長を歴任し，令和 5 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，算数・数学科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

浦安市立東小学校長 丸山 恵美子

昭和 63 年，浦安市立富岡小学校教諭。管内小学校教諭，教育庁葛南教育事務所指導主事，浦安市立東野小学校教頭を経て，平成 29 年，浦安市立日の出小学校長。その後，浦安市教育委員会指導課長，同教育総務部次長，同部長を歴任し，令和 5 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，道徳科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

我孫子市立我孫子第一小学校長 榊原 憲樹

昭和 62 年，柏市立富勢小学校教諭。管内小学校教諭，リヤド日本人学校教諭，教育庁教職員課管理主事，我孫子市立我孫子第二小学校教頭，我孫子市教育委員会指導課長を経て，平成 28 年，我孫子市立湖北小学校長。その後，我孫子市教育委員会学校教育課長となり，令和 3 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，音楽科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校長 飯塚博文

昭和63年、東葛飾郡関宿町立中央小学校教諭。県内小学校教諭、鎌ケ谷市内小学校教頭、鎌ケ谷市教育委員会学校教育課主幹、同指導室長を経て、平成29年鎌ケ谷市立道野辺小学校長。その後、県子どもと親のサポートセンター支援事業部長、鎌ケ谷市教育委員会生涯学習部副参事を歴任し、令和5年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、算数科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

四街道市立中央小学校長 長谷川由美子

昭和61年、成田市立成田小学校教諭。管内小学校教諭、四街道市教育委員会指導課指導主事、四街道市立和良比小学校教頭、教育庁指導課指導主事、同学習指導課指導主事を経て、平成31年、四街道市立旭小学校長。その後、教育庁北総教育事務所主席指導主事となり、令和4年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、道德教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

白井市立大山口小学校長 和地滋巳

昭和63年、印旛郡印西町立内野小学校教諭。管内小学校教諭、教育庁生涯学習課主査、同教育政策課主査、白井市立白井第三小学校教頭、白井市教育委員会学校教育課主幹、教育庁北総教育事務所管理主事、同教育政策課副主幹、同教職員課管理主事を経て、平成30年、白井市立清水口小学校長。その後、白井市教育委員会参事、同教育部長を歴任し、令和4年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、理科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

匝瑳市立八日市場小学校長 松倉孝夫

昭和62年、銚子市立春日小学校教諭。管内小学校教諭、匝瑳市立椿海小学校教頭、教育庁北総教育事務所管理主事、同教職員課管理主事を経て、平成29年、匝瑳市立豊栄小学校長。その後、教育庁学校安全保健課主席指導主事、県総合教育センター次長を歴任し、令和3年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、算数科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

東金市立鵜嶺小学校長 中田邦明

昭和63年、千葉大学教育学部附属養護学校教諭。県内小学校教諭、山武市立睦岡小学校教頭、教育庁東上総教育事務所管理主事を経て、平成28年、大網白里市立瑞穂小学校長。その後、教育庁東上総教育事務所主席管理主事、同管理課長、同次長、教育庁北総教育事務所長を歴任し、令和4年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に特別支援教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

山武市立松尾小学校長 高野隆博

昭和62年、四街道市立千代田中学校教諭。県内小中学校教諭、山武市教育委員会学校教育課指導主事、山武市立山武西小学校教頭、県総合教育センター研究指導主事を経て、平成30年、九十九里町立片貝小学校長。その後、山武市教育委員会学校教育課指導室長、同子ども教育課長を歴任し、令和4年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、英語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

芝山町立芝山小学校長 根本 敦

平成2年、東金市立東小学校教諭。管内小学校教諭、教育庁特別支援教育課指導主事、山武市立山武北小学校教頭を経て、平成30年、大網白里市立増穂小学校長。その後、教育庁特別支援教育課主席指導主事、同教育支援室長を歴任し、令和4年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、特別支援教育の推進に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

茂原市立豊田小学校長 長谷川 雄二

昭和63年、長生郡長南町立西小学校助教諭。管内小学校教諭、茂原市立五郷小学校教頭、教育庁東上総教育事務所管理主事を経て、令和2年、茂原市立東部小学校長。その後、令和4年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

茂原市立茂原小学校長 伊藤 信博

平成2年、茂原市立中の島小学校教諭。管内小学校教諭、長柄町立長柄小学校教頭、教育庁学校安全保健課指導主事を経て、平成31年、横芝光町立白浜小学校長。その後、茂原市教育委員会学校教育課主幹、同課長を歴任し、令和5年から現職。この間、学級経営及び教育行政に実績を上げ、特に、体育科教育の振興に尽力し、本県教育の推進に尽力した功績は大である。

木更津市立真舟小学校長 北岡 由佳

昭和62年、木更津市立木更津第二小学校教諭。県内小学校教諭、教育庁南房総教育事務所指導主事、木更津市立請西小学校教頭、真舟小学校副校長を経て、令和2年、木更津市立祇園小学校長。その後、令和4年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、特別支援教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

富津市立富津小学校長 鈴木 規幸

昭和63年、北海道根室市立光洋中学校教諭。千葉県内中学校教諭、富津市立富津中学校教頭、富津市教育委員会学校教育課教育センター主幹、同再配置推進室長を経て、平成31年、富津市立天羽東中学校長。その後、県子どもと親のサポートセンター教育相談部長となり、令和4年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、生徒指導の充実に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

袖ヶ浦市立長浦小学校長 平川 真

昭和62年、市原市立市原小学校教諭。管内小学校教諭、千葉市立大巖寺小学校教頭、環境生活部県民生活文化課副主幹を経て、平成31年、袖ヶ浦市立蔵波小学校長。その後、令和4年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、音楽科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

市原市立清水谷小学校長 国分雅彦

昭和 62 年，市原市立五井小学校教諭。管内小学校教諭，環境生活部県民生活課主査，市原市教育委員会指導課指導主事，市原市立光風台小学校教頭，教育庁南房総教育事務所管理主事を経て，平成 30 年，市原市立戸田小学校長。その後，市原市教育委員会教育センター所長，同学校教育課長を歴任し，令和 4 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，体育科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立新宿小学校長 栗和田 耕

昭和 63 年，佐原市立佐原小学校教諭。千葉市内小学校教諭，千葉市教育委員会保健体育課指導主事，千葉市立鶴沢小学校教頭，千葉市教育委員会指導課指導主事，同課長補佐を経て，平成 29 年，千葉市立花島小学校長。その後，千葉市教育委員会学事課統括管理主事，同課長を歴任し，令和 5 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，理科教育の振興に尽力し，本県教育の振興に寄与した功績は大である。

習志野市立第二中学校長 蓮 一 臣

昭和 62 年，習志野市立第二中学校教諭。習志野市教育委員会体育センター主任主事，同生涯スポーツ課主任主事，管内小中高等学校教諭，県総合スポーツセンター保健体育主事，県生実学校児童自立支援専門員，習志野市教育委員会指導課指導主事，教育庁葛南教育事務所指導主事，千葉県立八千代東高等学校教頭，習志野市教育委員会指導課長を経て，令和 2 年，習志野市立香澄小学校長。その後，習志野市教育委員会学校教育部次長となり，令和 5 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，体育科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

習志野市立第七中学校長 木下初恵

平成元年，習志野市立第七中学校教諭。管内小中学校教諭，習志野市教育委員会指導課指導主事，習志野市総合教育センター指導主事，習志野市立袖ヶ浦西小学校教頭，教育庁葛南教育事務所指導主事，習志野市総合教育センター所長を経て，平成 31 年，習志野市立藤崎小学校長。その後，県総合教育センター主席研究指導主事，同研修企画部長を歴任し，令和 5 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，音楽科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

船橋市立七林中学校長 仲 臺 和 浩

平成元年，船橋市立宮本中学校教諭。管内中学校教諭，教育庁教職員課管理主事，船橋市立三山中学校教頭，千葉市教育委員会学事課管理主事，船橋市総合教育センター副主幹を経て，平成 28 年，船橋市立金杉台中学校長。その後，県総合教育センター主席研究指導主事，船橋市教育委員会学務課主幹，船橋市総合教育センター所長を歴任し，令和 5 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，理科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

市川市立第一中学校長 鈴木康治

昭和 62 年，市川市立南行徳中学校教諭。県内中高等学校教諭，県総合教育センター指導主事，同研究指導主事，市川市教育委員会地域教育課副主幹，同指導課副主幹，市川工業高等学校教頭，市川市立第一中学校教頭を経て，平成 30 年，市川市立福栄中学校長。その後，県総合教育センター主席研究指導主事，同カリキュラム開発部長を歴任し，令和 5 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，理科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

流山市立南流山中学校長 宮本信一

昭和62年、流山市立東部中学校教諭。管内中学校教諭、流山市教育委員会指導課指導主事、流山市立常盤松中学校教頭、教育庁東葛飾教育事務所管理主事を経て、平成29年、流山市立流山北小学校長。その後、流山市教育委員会学校教育部次長、同部長を歴任し、令和5年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、英語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

成田市立西中学校長 藤崎修治

昭和62年、佐倉市立佐倉東中学校教諭。管内中学校教諭、成田市教育委員会学務課管理主事、成田市立西中学校教頭、教育庁北総教育事務所管理主事を経て、平成29年、成田市立下総みどり学園校長。その後、成田市教育委員会学務課長となり、令和3年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、数学科教育ならびに情報教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

白井市立大山口中学校長 榊原正策

昭和62年、印旛郡白井町立白井中学校教諭。管内中学校教諭、佐倉市教育委員会指導課指導主事、佐倉市立白井中学校教頭、佐倉市教育委員会学務課副主幹、教育庁北総教育事務所管理主事、独立行政法人教員研修センター主任指導主事を経て、平成29年、白井市立桜台中学校長。その後、教育庁教育政策課教育広報室長、同東葛飾教育事務所長、同児童生徒課長を歴任し、令和4年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、国語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

東金市立東金中学校長 大矢孝之

平成4年、山武郡松尾町立豊岡小学校教諭。管内中学校教諭、九十九里町立九十九里中学校教頭、教育庁教職員課管理主事を経て、平成29年、山武市立山武南中学校長。その後、教育庁教職員課主席管理主事、県総合教育センター次長、教育庁東葛飾教育事務所長を歴任し、令和5年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、保健体育科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

大網白里市立増穂中学校長 大木正之

平成元年、東葛飾郡関宿町立木間ヶ瀬中学校教諭。県内中学校教諭、九十九里町立九十九里中学校教頭、教育庁東上総教育事務所指導主事を経て、令和2年、白子町立南白亀小学校長。その後、教育庁東上総教育事務所山武分室長となり、令和5年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、社会科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

鴨川市立安房東中学校長 岡野美智代

昭和62年、柏市立南部中学校教諭。県内中学校教諭、教育庁指導課指導主事、県総合教育センター指導主事、富津市立吉野小学校教頭、君津市立坂畑小学校教頭、県総合教育センター研究指導主事、同学力調査部長を経て、令和2年、鴨川市立西条小学校長。その後、令和5年から現職。この間、学校経営及び教育行政に実績を上げ、特に、国語科教育の振興に尽力し、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

市原市立八幡中学校長 立野雅史

昭和 63 年，市原市立姉崎中学校教諭。管内中学校教諭，市原市教育委員会青少年課青少年指導センター主任，同副主査，市原市立南総中学校教頭，教育庁南房総教育事務所管理主事を経て，平成 31 年，市原市立ちはら台西中学校長。その後，教育庁南房総教育事務所主席管理主事，同管理課長を歴任し，令和 5 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，社会科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

市原市立若葉中学校長 北森 功

昭和 63 年，君津市立周西南中学校教諭。管内中学校教諭，市原市教育委員会指導室青少年指導センター副主査，同主査，市原市立五井中学校教頭，市原市教育委員会指導課指導主事を経て，平成 29 年，市原市立三和中学校長。その後，教育庁南房総教育事務所主席指導主事，同指導室長を歴任し，令和 4 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，国語科教育の振興に尽力し，本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立緑町中学校長 吉田悦子

昭和 63 年，千葉市立磯辺第一中学校教諭。市内中学校教諭，千葉市立轟町中学校教頭，千葉市教育委員会教職員課管理主事，同教育職員課主任管理主事を経て，平成 30 年，千葉市立小中台南小学校長。その後，千葉市教育委員会教育職員課統括管理主事，同課長を歴任し，令和 6 年から現職。この間，学校経営及び教育行政に実績を上げ，特に，数学科教育の振興に尽力し，本県教育の振興に寄与した功績は大である。

(2) 団体の部

千葉県立茂原高等学校

明治 35 年開校。以来、外房地区の女子教育の先駆者として確固たる地位を築いており、平成 16 年に共学となった県内屈指の伝統校である。令和 5 年度に千葉県教育委員会から「課題探究型キャリア教育ゼミ」の連携校として指定を受け、地元企業や団体と強い連携を結び、地域課題やその解決策等について動画やアクションプランを作成するなど、生徒の課題解決能力の育成に取り組んでいる。また、心のバリアフリー教育の推進にも取り組んでおり、地域と人を結ぶ交流活動にも力を入れている。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立市原八幡高等学校

昭和 58 年開校。以来、生徒一人一人の個性を伸ばす教育をしつつ、「自立と創造」の教育を推進している。県立学校改革推進プラン・第 3 次実施プランにより、東日本大震災の教訓を活かし、防災教育を推進するために、平成 31 年度から「防災の学び」を教育課程に位置づけ、地域社会との連携を深めつつ、研究実績を上げている。令和 4 年度に文部科学省及び千葉県教育委員会から「学校安全総合支援事業」の指定を受け、「命の大切さを考える防災教育公開事業」の拠点校として幅広い活動を展開した。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立安房特別支援学校

昭和 52 年に開校。以来、南房総地区内の本校、分校、分教室の 3 拠点において、複数の障害種に対応した教育のほか、通級による指導も担い、総合的な機能を有する特別支援学校として、地域の特別支援教育のセンター校としての役割を果たしている。令和 4・5 年度には千葉県教育委員会の研究指定校として、「センター的機能の充実」を目指して、安房地区における医療的ケア児の支援ネットワークを新たに構築し、地域に大いに貢献している。また鴨川小学校内に併設している鴨川分教室は小学校児童との日常的で自然な関わりも含めた交流及び共同学習により、相互理解の深まりが図られ、全県のモデル校となっている。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉県立市原特別支援学校

昭和 56 年に開校。以来、地域の教育委員会や福祉等の関係機関と連携を図りながら、地域の特別支援教育のセンター校としての役割を果たしてきた。平成 26・27 年度には千葉県教育委員会の研究指定校として「センター的機能の充実」を目指して、高等学校との就労支援に係るネットワーク構築に取り組み成果をあげている。平成元年度から 3 年度までの 3 年間は、「特別支援学校を拠点とした障害者スポーツ振興事業」で、南房総地区の拠点となりボッチャの普及啓発に取り組んだ。また、つるまい風の丘分校では、「南市原応援隊」として授業で身に付けた知識や技能を活かした地域貢献活動に積極的に取り組み、令和 5 年度には魅力ある県立学校づくり大賞特別賞を受賞した。これらの教育実績は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

船橋市立葛飾小学校

明治 25 年開校。以来、児童の体力向上や学校安全に向けた取組を推進してきた。現在は、学校教育目標を『21 世紀を生き抜く 心豊かでたくましい児童の育成』と定め、教育活動に邁進している。教育研究の分野においては、昭和 60 年度に文部省指定帰国子女教育研究協議会の開催を端として、継続的に国際理解教育の研究を進めている。平成 25 年度から 10 年間、船橋市教育委員会から「国際理解教育」の研究指定を受け、研究主題である『国際性豊かな児童の育成～情報活用能力の育成を基盤として～』の実現を目指して授業改善に取り組んだ。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

松戸市立八ヶ崎小学校

昭和46年開校。以来、体育科教育に関する先進的な実践研究を推進してきた。昭和50年度には松戸市教育委員会から学校体育研究の指定を受け、研究実績を上げている。令和5年度には松戸市立常盤平中学校、松戸市立松戸高等学校とともに千葉県学校体育研究大会を開催し、学校体育の指導上の問題に関する研究協議を通して、体育指導者の資質の向上を図るとともに、体育指導の質的改善とその充実に寄与した。同年度に公益財団法人日本学校体育研究連合会から全国学校体育研究優良校として表彰されるなど、これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

四街道市立山梨小学校

昭和53年開校。以来、地域社会との連携を深めつつ、異文化交流、自国の伝統文化への理解、福祉体験等の活動を展開し、研究実績を上げている。平成29年度に文部科学省から「教育課程特例校」として、平成30年度に四街道市教育委員会から「英語教育推進モデル校」として指定を受け研究を実践し、令和4年度に地域学校協働活動推進員研修講座の会場校として、活動公開及び実践発表を行い、その成果を広めた。令和5年度に「心のバリアフリー教育グッドプラクティス顕彰」最優秀賞を受賞するなど、これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

印西市立原山小学校

平成元年開校。以来、主に体育科の研究を継続して推進し、研究実績を上げている。令和元年度に印西市教育委員会から「情報教育推進校」として、令和3・4年度に印旛地区教育委員会連絡協議会指定「教科横断的な視点での情報活用能力育成研究」を、令和5年度に文部科学省から「授業時数特例校」として指定を受け、「先進的な情報教育カリキュラム開発」の公開研究会を実施し、県内外から視察を多数受け入れるなど、その研究成果を広く発信している。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

大網白里市立増穂小学校

明治41年開校。以来、家庭・地域とともに歩むふるさとに誇れる学校を目指し、確かな学力、健康でたくましい体、豊かな心を持つ児童の育成に努め、実績を上げている。平成26・27年度に千葉県教育委員会から特別支援教育の指定を受け、令和2・3年度に千葉県教育委員会から「地域における食育指導推進事業」拠点校として指定を受け研究に取り組み、令和5年度に山武教育研究会体育教育部会から研究指定を受け、公開研究会を開くなど、幅広い研究活動を展開している。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立都賀小学校

明治7年開校。以来、各教科の学習指導において、教科横断的な取組や表現の工夫を中心とした授業実践を数多く行っている。平成26・27年度に千葉市教育委員会から指定を受け、読むことと対話、探究的な学習について考えを深める子どもの育成を目指し、意見交流や振り返りの場の工夫について研究した。令和2・3年度に千葉市教育委員会から指定を受け、理科と生活科において、教材教具の工夫や協働的な学びについて取り組み、その実践を発信した。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立金沢小学校

平成 19 年開校。以来、健康教育や地域との連携を中心とした推進事業など数多くの実践を行い、成果を挙げている。平成 26・27 年度に千葉市教育委員会から学習指導に関する指定を受け、算数教育を中心に学力向上を目指し、「人・物・事柄」との関わりから算数的な活動に取り組んだ。令和 3・4 年度に千葉市教育委員会から指定を受け、ICT の効果的な活用について、直接体験による教育的効果を 1 人 1 台端末(ギガタブ)の活用によって更に高める視点から、授業改善に取り組んだ。このような教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

船橋市立葛飾中学校

昭和 22 年開校。以来、生徒の健康増進に向けた取組を推進してきた。現在は、学校教育目標を『高い知性と広い視野をもち、困難に負けない人間性豊かな生徒の育成』と定め、教育活動に邁進している。教育研究の分野においては、昭和 60 年度から文部省の地域指定を受け継続的に国際理解教育の研究を進めた。平成 25 年度から 10 年間、船橋市教育委員会から「国際理解教育」の研究指定を受け、研究主題である『グローバル社会で求められる資質の育成』の実現を目指して授業改善に取り組んだ。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

白子町立白子中学校

昭和 37 年町内 3 中学校を統合し開校。以来、豊かな心と知性を持ち、健康でたくましく生きる生徒の育成を目指した教育実践に努め、実績を上げている。平成 26 年度から 3 年間、文部科学省から「発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業」に委託され、学習面や行動面で何らかの困難を示す生徒を含むすべての生徒が理解しやすいよう配慮した授業等の改善に取り組んだ。また、平成 27 年度に千葉県教育委員会から「映像教材を利用した道徳教育の授業」実施校として指定され、研究成果を発表した。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

勝浦市立勝浦中学校

平成 29 年市内 3 中学校を統合し開校。以来、「地域資源を活用した特色ある教育課程『郷育プロジェクト』」等に取り組む、実績を上げている。平成 27 年に千葉県教育委員会から「確かな学びの早道『読書』事業」として指定を受け、生徒がより一層読書に親しむことができる学校図書館の環境整備を推進した。令和 3 年度から 3 年間、千葉県教育委員会から「福祉教育推進校」として指定を受け、地区の社会福祉協議会や学区の小学校や高等学校と連携し、地区を挙げて「福祉の心」をもつ子供の育成に取り組んだ。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。

千葉市立加曽利中学校

昭和 22 年開校。以来、学校体育における授業実践を数多く行い、成果を挙げている。平成 23・24 年度に千葉市教育委員会から「保健体育」の研究指定を受け、コミュニケーション能力と体力を高める「体づくり運動」の研究に取り組み、令和 5 年度に文部科学省から「働き方改革推進校」として委託を受け、教員業務支援員の活用を関連させた教員の負担軽減に取り組んだ。また、令和 4・5 年度に千葉市教育委員会から「キャリア教育」の指定を受け、特色ある体験活動を進路や生き方の実現に結び付けた。これらの教育実践は高く評価されており、本県教育の進展に寄与した功績は大である。